

>>>> 鹿児島県本格焼酎技術研究会講演会を開催 <<<<

7月20日（金）に、ホテルウェルビューかごしま（鹿児島市）で、鹿児島県本格焼酎技術研究会平成24年度第1回講演会を開催しました。県内焼酎メーカーの製造技術者を対象とした自主研究会で、今回の講演会には107名の参加がありました。講演内容は以下のとおりでした。

- ①放射性セシウムの性質と醸造工程における挙動
（独）酒類総合研究所 奥田 将生 氏
- ②酒と食・被災から復興に向けた取り組み
宮城県産業技術総合センター 橋本 建哉 氏



講演会の様子

>>>> インターンシップの受け入れ <<<<

8月20日～24日の期間、当センターにおいてインターンシップの受け入れを実施しました。

（参加者：3校 計4名）

企画支援部では、デザイン関連の実習に、食品・化学部では、発酵食品に関連する成分分析、製造実習などに取り組みました。また、生産技術部では、計測制御用ソフトウェアのプログラミングや、CAE解析に取り組みました。

参加した学生からは、「貴重な経験を今後の活動に生かしたい」という声が聞かれました。



食品・化学部における実習風景

>>>> 鹿児島大学大学院化学工学特別講義の開催 <<<<

8月20日～24日の期間、当センターにおいて鹿児島大学の大学院生を対象に、化学工学特別講義を実施しました。（受講者：20名）

当センターの職員14名が講師となり、幅広い分野についての基礎的な知識から最先端の内容を含む専門的な講義や実習を行いました。

合計22時間を超える集中講義を受講した学生からは、「大学では学べない分野について、貴重な講義や実習を受けることができた」「非常に良い経験になった」などの声が寄せられました。



講義風景

>>>> 特許登録 <<<<

「高強度、高真球度ガラス質微細中空球の製造方法」

県と株式会社井川産業及び株式会社プリンシプルが平成20年8月6日に特許出願した「高強度、高真球度ガラス質微細中空球の製造方法」が、7月13日に特許登録されました（特許第5035563号）。

本発明は、8MPaで1分間の静水圧浮揚率45%以上、真球度0.80以上をもつ高強度、高真球度のガラス質中空球の製造方法を提供するものです。

火山ガラス原鉱を、内燃式媒体流動床炉を用いて焼成発泡する方法において、高温乾燥処理した原料を、最初900～1050℃で第一段焼成を行い、次いで得られた熱処理物を1050～1150℃で第二段焼成を行うことによって、目的のガラス質中空球を得る方法です。



「高真球度シラスバルーンの製造方法及びそれによって得られる高真球度シラスバルーン」

県と株式会社プリンシプルが平成20年6月3日に共同で特許出願した「高真球度シラスバルーンの製造方法及びそれによって得られる高真球度シラスバルーン」が、8月31日に特許登録されました（特許第5070505号）。

本発明は、天然のどのようなシラス原鉱を用いても、1回の焼成で高真球度及び高耐圧強度を持つシラスバルーンを得ることができる製造方法を提供するものです。

シラス原鉱から重鉱物成分を除去した残分に、高速気流中衝撃処理を施したのち、粒径20～150 μ mの粒分を内燃式媒体流動床炉で900～1150℃で焼成発泡して、目的のシラスバルーンを得る方法です。



「高強度ガラス質軽量フィラー材料」

県と株式会社プリンシプルが平成20年5月22日に共同で特許出願した「高強度ガラス質軽量フィラー材料」が、9月7日に特許登録されました（特許第5077848号）。

本発明は、火山ガラス質の原鉱石からフィラー材料に適する高強度のガラス質中空球を提供するものです。

シラスなどの火砕流堆積物を微粒、中粒、粗粒に3種類に分級し、その中粒を内燃式媒体流動床炉に供給し、焼成発泡することで得られる高強度のガラス質中空球からなる軽量フィラー材料です。

